

記者提供資料（令和3年7月30日）

環境局環境保全部環境保全指導課 中西、植木

大気質、自動車騒音・道路交通振動：矢野

TEL：078-595-6225 内線 955-3749

E-mail：kankyo\_sidou\_koutu@office.city.kobe.lg.jp

水質・地下水・農薬、ダイオキシン類：吉住

TEL：078-595-6226 内線 955-3754

E-mail：kankyo\_sidou\_suisitu@office.city.kobe.lg.jp

公害苦情処理：山田、福田

TEL：078-595-6223 内線 955-3728

E-mail：kankyo\_sidou\_taiki@office.city.kobe.lg.jp

環境局環境保全部環境都市課 甲本、岡田

放射線：磯野

TEL：078-595-6217 内線 955-3731

E-mail：assessment@office.city.kobe.lg.jp

## 令和2年度 神戸市の大気質・水質・騒音・公害苦情処理等の状況

神戸市では、市民の健康を保護し、生活環境を保全するため、大気質、水質、騒音の状況等について各種環境測定を行い、国が定めた生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準（環境基準）の適合を確認しています。

このたび、令和2年度の各種環境測定結果及び公害苦情処理状況についてとりまとめました。

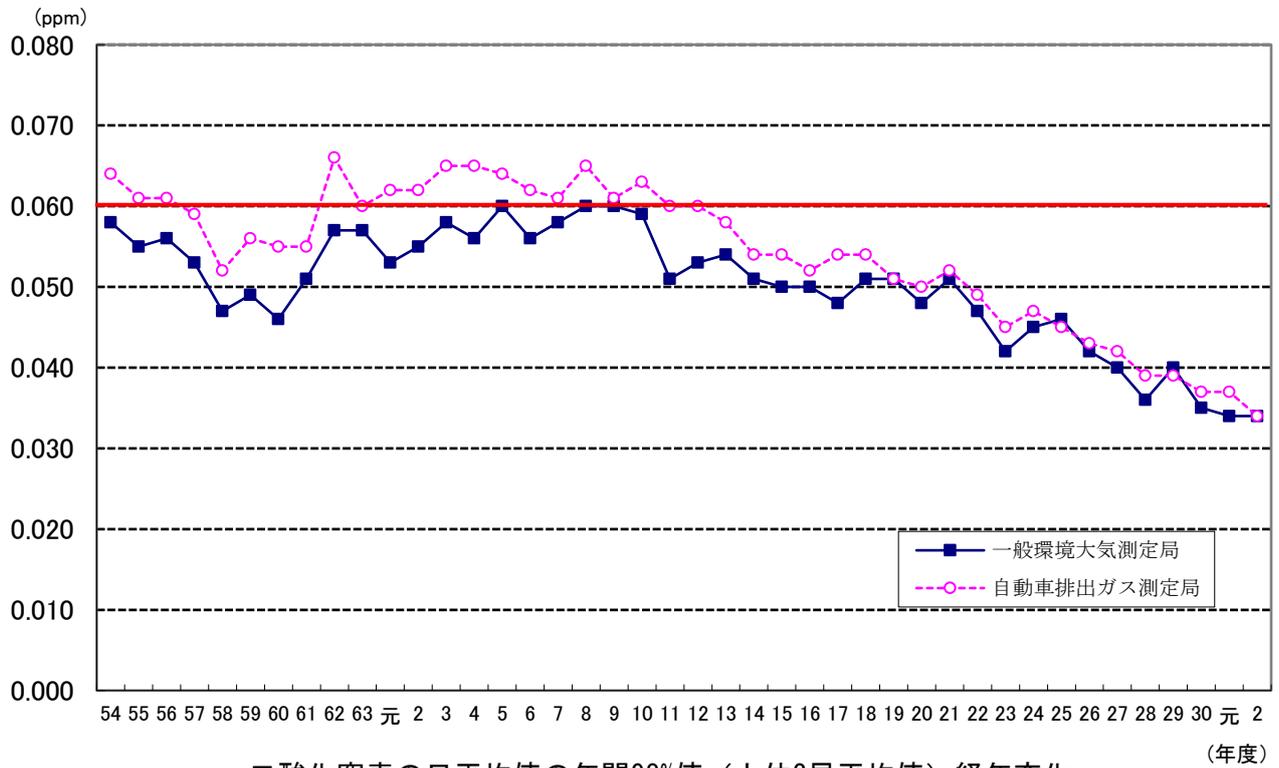
### 【概要】

- 市内の環境は、令和2年度を含め近年、総じて良好な環境を維持しており、環境測定結果のほとんどが環境基準に適合していました。
  - ・大気質については、21の測定局（一般環境大気測定局15局、自動車排出ガス測定局6局）で測定を行い、二酸化硫黄、二酸化窒素、一酸化炭素、浮遊粒子状物質、微小粒子状物質（PM2.5）については、測定した全局で環境基準を達成しました。一方、光化学オキシダントについては、全局で環境基準を達成しませんでした。
  - ・水質については、60地点（河川36地点、湖沼2地点、海域22地点）で測定を行い、概ね良好な水質でしたが、河川の一部の調査地点（2地点）で自然的要因により、環境基準値を超過したふっ素が検出されました。また、海域ではリン、窒素が環境基準を達成していました。湖沼ではCOD及び全燐については環境基準を達成しませんでした。
  - ・自動車騒音については、調査した幹線道路沿道50地点のうち、38地点で昼間及び夜間ともに環境基準を達成しました。
- 公害苦情件数は220件あり、そのうち工事現場の作業音等の騒音が最も多く（45%）、次いで悪臭に係る苦情が多くありました（32%）。

### 1. 主な大気質の状況

#### （1）二酸化窒素

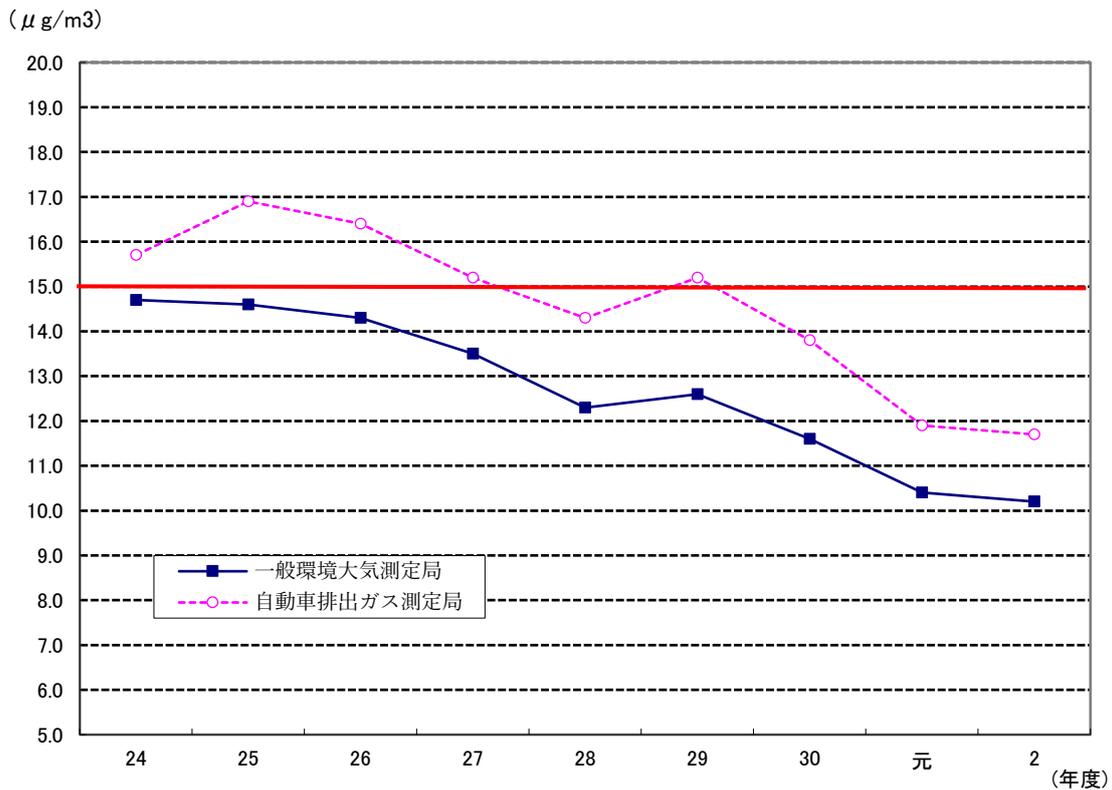
測定した全局（18局）で環境基準を達成しました。平成13年度以降、概ね減少傾向で推移しています。



二酸化窒素の年平均値の年間98%値 (上位3局平均値) 経年変化

(2) 微小粒子状物質 (PM2.5)

測定した全局 (16局) で環境基準を達成しました。平成25年度以降概ね減少傾向で推移しています。

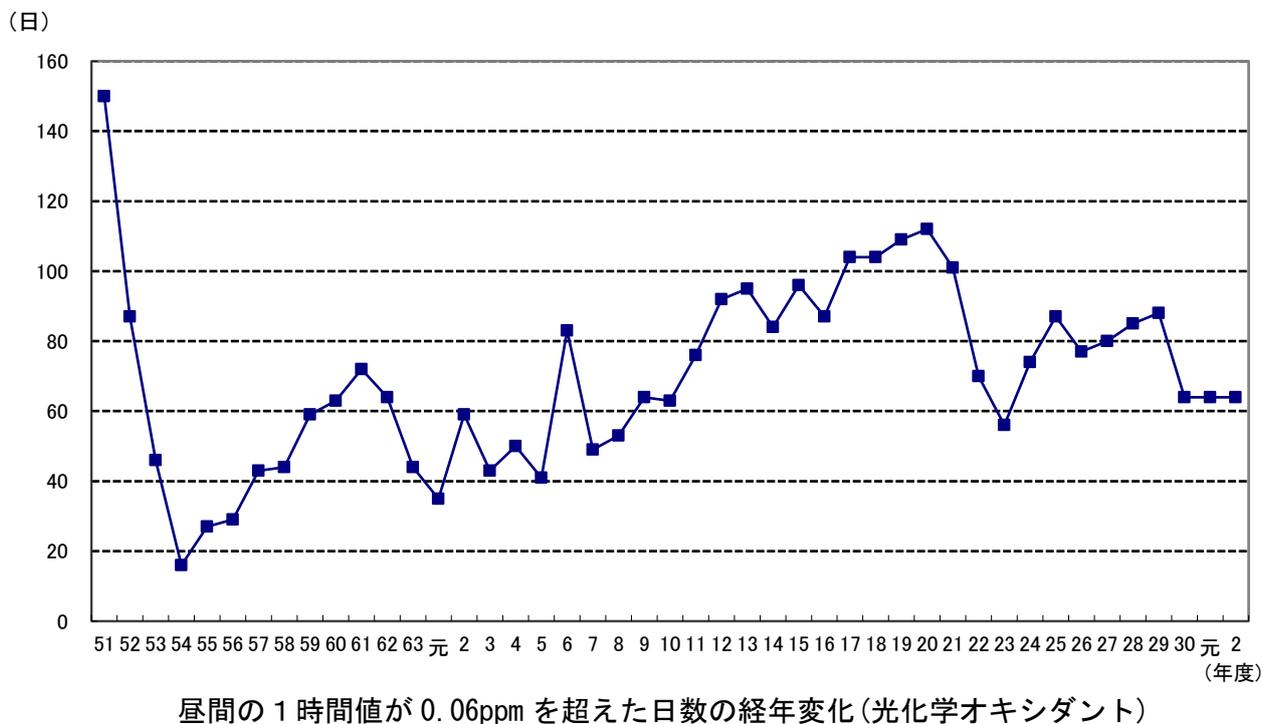


微小粒子状物質の年平均値の経年変化

### (3) 光化学オキシダント

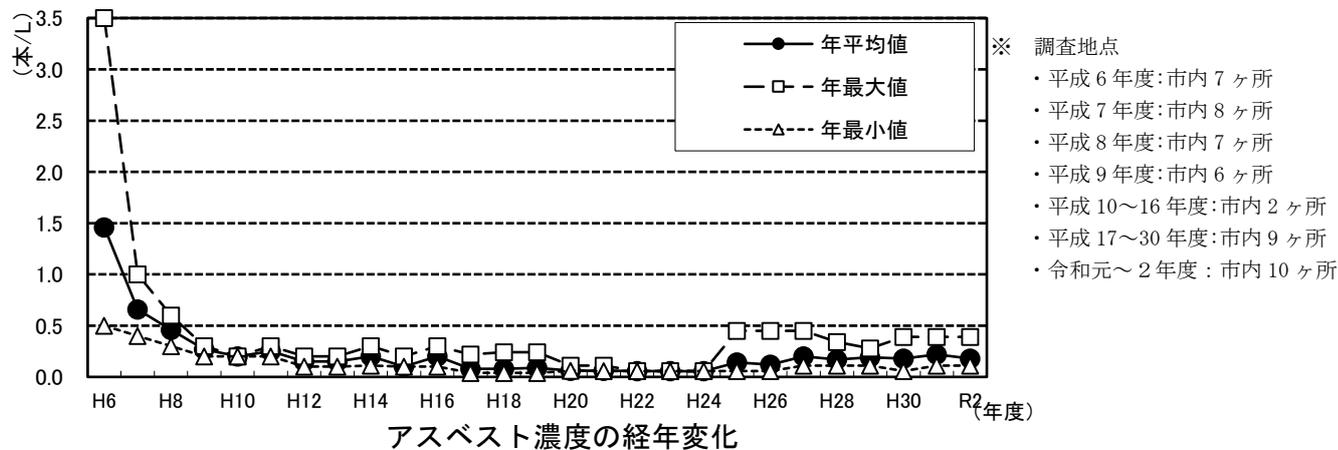
測定した全局（12局）で環境基準を達成しませんでした。全国的にもほぼ環境基準を達成していない状況です。（令和元年度測定地点 1,166 地点中、2 地点達成）

また、光化学オキシダントが原因となる健康被害は、平成14年度以降発生していません。



### (4) アスベスト

環境基準は定められていませんが、測定した10地点で、大気汚染防止法で定める工場等の敷地境界における基準（1リットルあたり10本以下）を全て下回っていました。



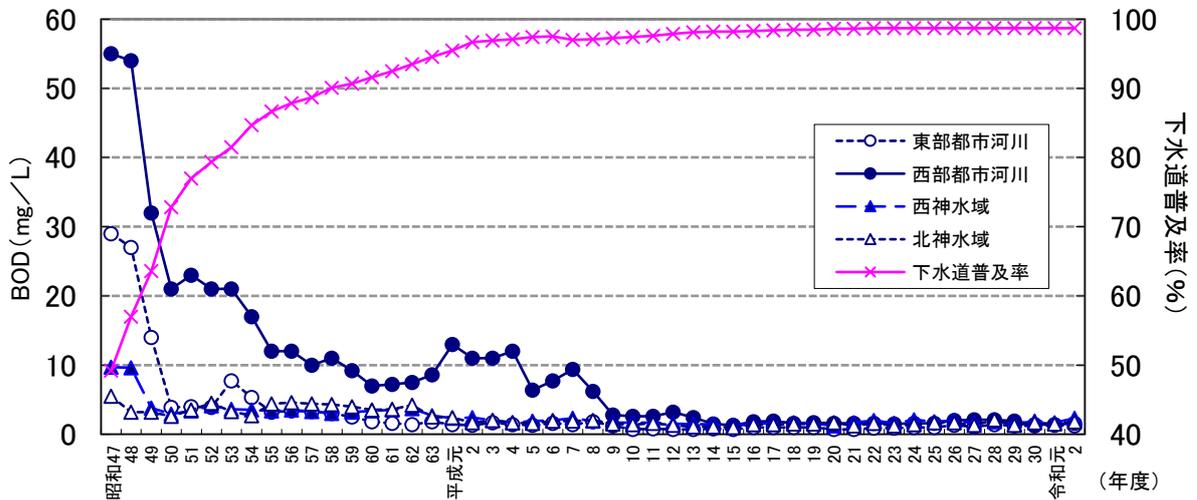
## 2. 主な水質の状況

### (1) 河川の水質

河川の水質汚濁の代表的指標である BOD<sup>\*</sup>は良好な水質（3 mg/L）で推移しています。しかしながら、調査地点のうち2地点で、自然的要因により、環境基準値を超過したふっ素が検出されました。

※BOD（生物学的酸素要求量）

水中の有機物が微生物の働きにより分解される際に消費される酸素量。



河川の水域別の BOD 75% 水質値の経年変化(水域別の平均値)

※ 都市河川水域（東部・西部）については、毎年測定している地点（東部：住吉川、都賀川、生田川、西部：新湊川、妙法寺川、福田川）のデータにより作成している。

※ 75%水質値：BOD及びCODについて環境基準の適否を評価する場合に用いられる統計値。日平均値の全データを値の小さいものから順に並べ、 $0.75 \times n$  番目（ $n$ は日間平均値のデータ数）のデータ値のことをいう。

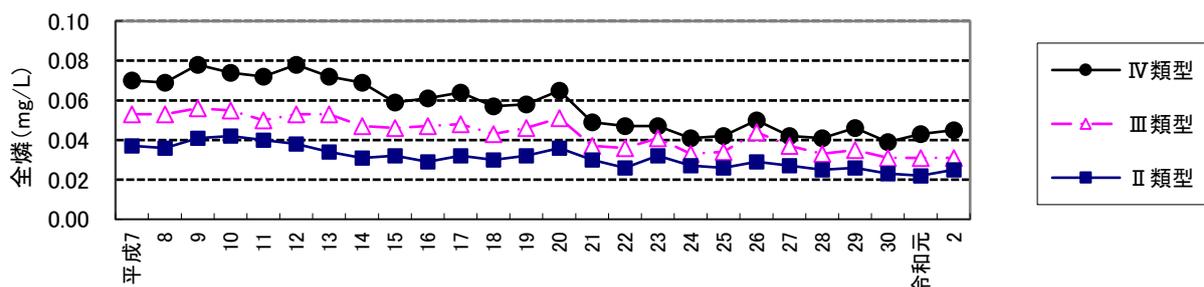
### (2) 海域の水質

瀬戸内海において、富栄養化の指標であるリンや窒素については、すべての調査地点で環境基準値を下回っていました。（調査地点は、海域の利用目的の適応性に応じて類型され、それぞれに環境基準が設定されています。）

〈全磷〉

全磷の環境基準値（上限値）・水質目標値（下限値）との比較

項目	年平均値 (mg/L)	類型	環境基準 (mg/L)	水質目標値 (mg/L)
全磷	0.025	II	0.03 以下	0.02 以上
	0.031	III	0.05 以下	
	0.045	IV	0.09 以下	

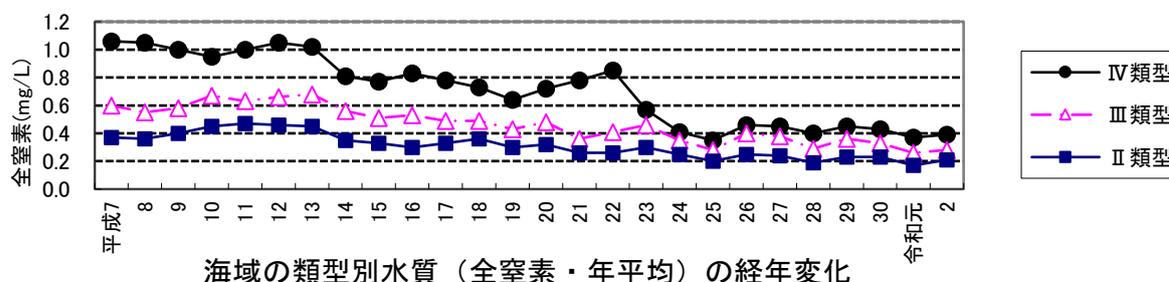


海域の類型別水質（全磷・年平均）の経年変化

## 〈全窒素〉

全窒素の環境基準値（上限値）・水質目標値（下限値）との比較

項目	年平均値 (mg/L)	類型	環境基準 (mg/L)	水質目標値 (mg/L)
全窒素	0.21	Ⅱ	0.3 以下	0.2 以上
	0.28	Ⅲ	0.6 以下	
	0.39	Ⅳ	1 以下	



### 3. 自動車騒音

幹線道路39路線の沿道50地点で測定し、38地点で昼間及び夜間とも環境基準を達成しました。また、昼間のみ環境基準を達成したのは3地点、昼間及び夜間とも環境基準を達成しなかったのは7地点でした。

### 4. 空間の放射線の状況

空間放射線量率について、全ての調査地点（各区の区役所等の9地点）で、東日本大震災発生前の測定結果（0.063～0.143  $\mu$ Sv/h）と比較して同程度またはそれ以下の値（0.055～0.092  $\mu$ Sv/h）でした。

### 5. 公害に関する苦情処理の状況

- ・令和2年度の公害苦情の受付件数は220件でした。
- ・種類別にみると、工事現場の作業音等の騒音が最も多く（45%）、次いで悪臭（32%）、水質汚濁（10%）に係る苦情が多くありました。

### 6. その他

(1) データ等の詳細は、環境局ホームページに掲載しています。

(2) 関連する神戸市HPのリンク

ア 過去の資料（令和元年度神戸市の大気質・水質・騒音・公害苦情処理等の状況）  
<https://www.city.kobe.lg.jp/a66958/442345735292.html>

イ 環境情報（環境保全・環境アセスメント）:

<https://www.city.kobe.lg.jp/a66324/kurashi/recycle/kankyohozen/index.html>